

# 三陸鉄道 雇用維持の取組み

三陸鉄道(株)代表取締役社長 望月正彦



# 三陸鉄道【略称:三鉄】の概要



◎三陸鉄道株)は、岩手県の陸中海岸を縦貫する路線を持つ、第三セクター方式の鉄道会社

◎国鉄再建法により「特定地方交通線」に指定された3路線(盛線・宮古線・久慈線)と新線区間(吉浜・釜石駅間、田老・普代駅間)を合わせ、1984年4月1日に開業

◎運行区間

- ・北リアス線：宮古～久慈駅 71.0km
- ・南リアス線：盛～釜石駅 36.6km

◎本社 宮古市 資本金 3億円

◎運行事務所と車両基地は久慈市と大船渡市

◎開業から10年間は黒字、以後はずっと赤字

◎しかし児童・生徒や高齢者の貴重な生活の足

◎多くの観光客を運び観光振興にも貢献

# 東日本大震災発生！！

- 震災の発生で三鉄は甚大な被害
- 3月中に部分運行再開するも存続の危機
- 社員の雇用維持もおぼつかない状況

しかし、



- ◎解雇すると全線運行再開時に要員不足に
- ◎開業時(1984年)に大量採用した社員が数年後に定年に達する

震災前の田野畑村島越駅



震災当日の島越駅



震災前の十府ヶ浦



震災1月後の十府ヶ浦



# 震災後の雇用対策

- ◎運転士などの余剰人員を関係会社（いわて銀河鉄道）に1年間限定で派遣
- ◎運転士などに資格（旅程管理者等）を取得させて運転以外の業務も担当
- ◎震災後も毎年計画的に要員を補充

- 2011年度運転士1名 ○2012年度総務2名、保線1名
- 2013年度運転士1名 ○2014年度運転士1名
- 2015年度運転士1名、保線1名
- 2016年度運転士2名（うち女性1名）、保線1名

⇒震災後採用した社員の中途退職は一人もない。

# 一次復旧工事の様子(野田村2013.2)



# 全線運行再開のテープカット(2014.4.5)



震災学習列車のガイド  
をする運転士



# 記念列車の運転士は震災年採用の小松君、車掌は新採用の沢里君



# 三鉄社員の士気が高い理由

- 給料は決して高くない(むしろ安い)
  - 一人何役もこなさなければならない
  - 年齢構成の偏りから、なかなか昇進できない
- でも、
- 多くの支援や応援をいただき使命感が強い
  - 意見や提案をしやすい企業風土(風通し良好)
  - 資格取得を奨励し自己実現、達成感がある
  - 地域社会・住民への愛着、一体感が強い
  - マスコミ等への露出が多くモチベーションが高い

取材を受ける今年の新入社員3名



三鉄のコーポレートスローガン「笑顔をつなぐ、ずっと...。」

